

22. 防災に必要な予算について

わが国は、災害列島であるがゆえに、国民の安全安心のためには自然災害への投資は避けられませんし、国民も十分に納得しているとは思いますが、しかし、本当に投資効果があるのかについては、さまざまな意見があるようで、実際にその効果が適正であるかどうかについては疑問もあるようです。

そもそも、自然災害は抑止することは出来ないわけで、いかに抑制し、避難の時間を稼いで安全を確保するのが大きな目標になります。そうすると、どこまで抑制するのか、事前にどのような方法で事象を予測するのか、これまでの設備や施設の維持保全は欠かせませんし、市民の協力や暮らし方の見直しというような多岐に亘って検討する必要があります。

これまでの方法が、国土の強靱化にどのような効果があったのかを分析評価する必要があります。今後の自然災害が多様で、頻発し巨大化するとも言われている中で、これまでの延長でいいのかどうかということになると思います。自然災害が避けられない列島では、対応の集中化、一本化が必要な気がします。これまでもさまざまな事業が展開されてきましたが、いわゆる総花だったり縦割りの管理下にあたりと、必ずしも効果的とはいえないものが多数あります。災害は全体的な評価でみていかないと、つぎはぎになったりしますので、国家的目標を一元化して着実に進めていくことが重要になります。緊急的な復旧や復興は必要ですが、全体系での視点や考え方が無いと、その後の地域づくりに支障となることさえ危惧されます。抑制のための対策については、通常はさまざまな安全率を持って計画されていますが、先ずはその適合性についても、複合的防災という観点からも検討すべきです。

次いで、事前の観測体制についても、質と量の両面からの備えを検討すべきです。密な観測網は欠かせないにしても同時に解析や予測能力を向上させていかないといけないし、国際的な情報交換といったことも含めての継続的な投資が必要な気がします。そして、何よりも、国民の理解と協力がなければ防災は進まないわけで、特に防災教育やコミュニティの再構築は緊急のことになると思います。それには継続することと、どのような方法で実施するのかというプロセスを含めたものが必要となります。このような、いわば基礎力が無いと、行政がハードだ、ソフトだといっても機能していかないと思います。あくまでも国民が主役ですので、一人一人に関心を持ってもらうような仕組みを作っていくとけないのは当然です。さらに、限られた国土を適正に利活用するということが必要で、そのためには居住、非居住というゾーニングをいまこそ実施する方向に動きはじめないと、効果の不明な投資が続くような気がします。大事なことは、継承すべき価値がある防災とはなにかを再構築することではないかと思っています。